



福祉のまち推進事業は、「住み慣れた家で安心して、ずっと暮らしたい」というみんなの願いをみんなで支える事業です。

近年の社会環境、世帯状況の変化に伴い、地域における人間関係の希薄化が進み、コロナ禍においてさらに社会的孤立が大きな問題となっています。今まで以上に身近な地域での、見守りや支え合い活動が必要になってきています。

そのため、各連合町内会単位に設置されている地区福祉のまち推進センター（以下「地区福まち」）では、住民同士の支え合い活動を広げていくために、さまざまな取り組みを行っています。

西地区 「ふれあい交流」を通じた、笑顔で仲間づくり

西地区は、東西に細長く、中心には南北に走る石山通や市電があり、東側は昔からの商店、アパートは新しいマンションへ建て替えが進んでいます。また、西側は戸建てが多く、地域活動に参加される方が多い特徴があります。

西地区福祉のまち推進センターでは、敬老祝賀会、マンドリン演奏会、シニア食事会等の“ふれあい交流活動”に重点をおいて、参加者同士が顔見知りになってそれぞれの地域に戻っても日常的に声を掛け合えるような関係づくりに取り組んできました。

西地区福まちセンターの加藤会長をはじめ役員の方からは、「今後、茶話会的な行事も取り入れて、来ている方からもご意見をいただき、男性高齢者が参加したくなる行事を企画して、地域の皆さんから楽しみにされる福まち活動を行って



いきたいですね。」と、ウィズコロナでの活動に対する抱負をお聞きしました。

「また、他地区



▲左から竹腰幹事、金澤会計幹事、（遠藤職員）、加藤会長、杉山代表幹事

でも抱えている問題だと思いますが、役員の担い手不足についてはできることから変えていきたいと思っています。まずは、若い世代は仕事をされているので、時間的な配慮は必要です。これまでの町内会役員中心の時間設定ではなく、若い世代に合わせた会議の持ち方や行事の実施スタイルを検討して、福まち活動をさらに盛り上げていきたいです。」と前向きな言葉が次々と出てきました。

西地区福まち活動を支えられている役員さんの熱い思いに引き込まれてしまい、お約束の1時間のインタビュー時間もあっという間に過ぎてしまいました。今後の西地区の福まち活動を楽しみにしております。

《西地区・第11町内会の活動紹介》 「助け合いゲーム」を行いました！ ～マンション内で交流の輪を広げています～

市電が通る第11町内会は、交通の利便性から高層マンションが立ち並んでいます。今回は、札幌市社協が集いの場として応援しているふれあい・いきいきサロン「秀とおしゃべりサロン」を開催している総戸数216戸の秀和レジデンスさんを訪問しました。

今月のサロン活動は、マンション内で気軽に声を掛け合ったり交流するきっかけづくりを広げようと「助けあいゲーム」を行いました。内容は、カードゲームを通じて、



「助けられること」「助けること」を気軽に体験して交流を深めるものです。サロンで顔を合わせていることもあって、「その困りごとなら、私がお手伝いしますよ!」と、気軽にカードを引き受けてくれる声があがり、笑顔の花がたくさん咲いた賑やかなサロンでした。

今後もマンション内にサロン活動の案内チラシを掲示して、たくさんの方々に参加を呼びかけていく予定です。

